

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
179	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Does an association exist between chronic pancreatitis and liver cirrhosis in alcoholic subjects?</p> <p>アルコール依存症患者において慢性膵炎と肝硬変は関連性がある?</p>	
<b>執筆者</b>	
Aparisi L, Sabater L, Del-Olmo J, Sastre J, Serra MA, Campello R, Bautista D, Wassel A, Rodrigo JM.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
World J Gastroenterol. 2008 Oct 28;14(40):6171-9.	
<b>キーワード</b>	
アルコール性慢性膵炎、アルコール依存症、膵臓機能、肝臓機能	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 他の原因を除外しても、アルコール性である慢性膵炎(CP)と肝硬変(LC)に関連があるかを調査すること。</p> <p><b>方法：</b> 140人の慢性アルコール依存症患者は、次の3つのグループに分類された: CP(n=53)、LC(n=57)、および無症候性アルコール中毒患者(n=30)。臨床、生化学、形態学的な特性については、Child-Pugh index、インドシアニングリーン試験、糞便膵臓のエラスターゼ-1テストで評価された。</p> <p><b>結果：</b> 肝硬変を伴う入院患者において、石灰化、肝管肥大およびのう胞などのCP変化の画像化と同様に、膵臓痛や脂肪性下痢などのCPの主要な臨床症状は、インスリン依存性糖尿病は、症例の5.3%で、エラスターゼ-1テストは、7%のみ反応があったのみで、他はほとんど反応が認められなかった。CPの患者において、肝硬変の腹水症や、大脳障害や消化管出血などの臨床的特徴があるケースは1例、5.7%にChild-Pugh grade&gt;A、インドシアニングリーン試験で1.9%が認められた。無症候性アルコール中毒には、エラスターゼ-1テストとインドシアニンテストは、それぞれ14.8%と10%が単独で反応があったのみで、肝硬変かCPのその他特性は認められなかった。アルコール依存症患者で、エラスターゼ-1テストとインドシアニン試験の間の逆相関(<math>r=-0.746</math>)であった。</p> <p><b>結論：</b> アルコール依存症でCPとLCの患者で、臨床および形態学的の反応に関連性が認められなかったが、膵臓と肝臓の機能検査で逆相関が認められた。これらの結果はアルコール性疾患が様々な進展し、異なった病因を持っていることを示している。</p>	